

さらに学びの “ユビキタス”へ

佐藤 壮広 まとめ



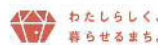
コロナ危機によって 対面の講座や講演会が制限され、オンラインでの実施が激増した。この「オンライン化」は、学びの現場に限って言えば「新しい生活様式」でも「ニューノーマル」でも何でもない。2003年、総務省はユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会を開き、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながる社会の政策ビジョンを模索していた。ところが、それがいつしか尻すぼみになってしまった。昨年話題となった「脱ハンコ社会」への抵抗に見られるように、日本社会はハンコをポンと押せる対面の関係・距離にこだわり、ビジネスや学びの重きをそこに置き続けてきた。しかし、コロナ危機はそのこだわりの無駄さ加減を露呈させた。世の中は、IT 端末と機会さえあれば、世界中の人たちとつながり、ビジネスと教育の益を享受できる状況にある。

ユビキタスとは、ラテン語「Ubiquitous」に由来する、「至るところにある、遍在する」という意味のマーケティング用語で、インターネットが普及した社会における諸活動の特徴を表現した言葉だ。コロナ危機下のとしまコミュニティ大学「マナビゼミ」の各成果は、あらためてこの“ユビキタス”社会を招来させたものと考えられることができる。「今年は開講できない。前例がない」などの声も、きつとあったはずだ。しかし幸運なことに、2020年度のとしまコミュニティ大学の講座やゼミのいくつかはオンラインやオンデマンドで継続実施された。その講座に講師として関わることができ、心から誇りに思う。なぜならば、**ユビキタスが意味する「至るところにある」学びを、ゼミ受講生と一緒に体現できたからだ**（詳しくは本冊子の報告ページ参照）。

学びのコンテンツ詰めは、ゆっくりじっくりやれば良い。ビジネスとは異なる教育というフィールドの特徴は、そうした中から出てくる。としま学びスタイルも、受講生たちと一緒にコツコツと確実に創っていくものだ。「学びの歩みは止めない」というメッセージを、再度ここで共有したい。



SDGs 未来都市豊島区



豊島区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

発行日：令和3年3月

発行：豊島区文化商工部 学習・スポーツ課

〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 TEL：03-4566-2762



Contents

- p01 もくじ
- p02 はじめに
コラム① みんなでつくる「としま学びスタイル」
- p03 File1 多文化共生の思想基盤をつくるための学び
コラム② 「としま学びスタイル」の今と未来について
—学びあう場のさらなるひろがり—
- p04 File2 区民の学びこそ 社会の力になる
- p05 File3 学んだ成果を広く発信し
さらに一歩先の学びへ
~06 コラム③ ビジョンは「あなた」の応援団
- p07 まとめ さらに学びの“ユビキタス”へ

としまコミュニティ大学 マナビトゼミ

としまコミュニティ大学では、2年間登録をして学ぶことのできる「マナビト生」制度を導入しています。この制度は学びを通じて、受講生同士がゆるやかにつながり、地域づくりや地域課題を継続的な学びで解決してゆくための制度です。多様な学習ニーズを持った人々がゼミ形式で学びあうことで、学んだ成果を地域に還元し、豊島区の魅力を発信しています。



文責：佐藤社広

としまコミュニティ大学の講師。としまコミュニティ大学で多ジャンルの本を読むクラスを担当し、現代社会を深く理解するための「情報リテラシー」をゼミ生とともに磨いている。豊島区立中央図書館発行の図書館通信では本を紹介する「この本カフェ」コーナーを監修、オンライン書評講座「本はともだち」（としまテレビ）講師。令和3年4月から山梨学院大学学習・教育開発センター特任准教授。豊島区在住。

はじめに

豊島区では区民の生涯学習を推進するため、区内7大学と協働して講座を実施している「としまコミュニティ大学」など、さまざまな学びを展開しています。

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で大きく影響を受けました。大学の教室は使用できず、区内の施設で講座開催にこぎつけても会場の人数の制限を受けるなど、これまでに経験したことがないような事態となりました。

しかし、コロナ禍でも「学びの歩みは止めない」を合言葉に、学習者も、学びを支援する支援者も、講師も職員も一緒になって新しい学びのやり方を探り進めていきました。本号Vol.5では、としまコミュニティ大学のゼミ講座の事例を紹介し、学び続けることの大切さをお伝えしています。

また、豊島区の生涯学習を進めていく上で指標となる、『豊島区生涯学習推進ビジョン2020-2024』の策定に携わった生涯学習推進協議会の3人の学識経験者委員の方から、生涯学習を進めていく意義についてのコラムを寄稿していただきました。

学びの歩みは止めない！



Column
コラム

1

みんなでつくる 「としま学びスタイル」

東京学芸大学
総合教育科学系教育学講座
生涯教育学分野
准教授 倉持 伸江

生涯学習は、**区民の一人ひとりが主役**です。豊島区には、身近にたくさんのお勉強の場、お勉強の情報、お勉強のテーマ、お勉強の仲間が、周りの地域に自慢できるほど豊かにあります。**なんのために学ぶか、どうやって学ぶか、どこで学ぶかは自由**です。自分にあったものを選んでいいし、自分のスタイルが見つかるため、いろいろと試してみることもできます。新たに自分好みの学びを創ることもできるのです。

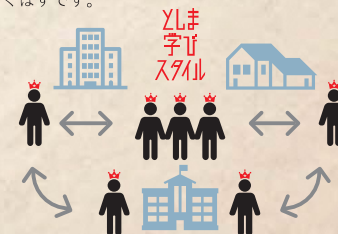
「としま学びスタイル」は、自由でバリエーション豊かなこうした区民一人ひとりの「学びスタイル」を大切に、その環境を整えつつ、豊島区の地域性や資源を活かし課題に向き合い、豊島区ならではの学びあいのかたちやデザインを、区民と行政とさまざまな組織や団体と一緒に作っていくものとするものです。そして、**まち全体に「学びの循環(わ)」を広げていく**とするものです。

学びと活動はゆるやかにつながって循環しています。学びが新しい興味や地域への関心を生み、次の学びにつながることもあります。学んだことを活かすような取り組みへつながったり、逆にすでにやっている活動が学びを求めたりすることもあります。学びの循環(わ)は地域の中にもあります。世代や国籍を超えて豊島区の中ではぐくまれ、受け継がれ、

作り直される学びは、活気ある地域コミュニティを維持し、新しい文化を創造していきます。

誰もが「としま学びスタイル」の主役です。それは、誰もが学びの主体であり、担い手であり、仲間であり、創り手であり、支援者であるということです。「としま学びスタイル」は実験や試行錯誤でつくられます。やってみて、ふりかえって、またやってみて、を繰り返していくうちに、新しい自分や仲間と出会い、居場所や生きがいが見つかるかもしれません。

ぜひ楽しみながら自由に学んでください。そしてぜひ、その学びをいろいろな人とシェアしてください。きっとそれが網の目のようにひろがって、「としま学びスタイル」を形作っていくはずですよ。



多文化共生の思想基盤をつくるための学び



多文化共生時代の現代日本社会を考える【佐藤ゼミ】

2020年度は小熊英二著『<日本人>の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』(新曜社1998)をとりあげ、アイヌ、沖縄、台湾、在日コリアンの人びとが明治の近代国家日本へどのように包摂され、また排除されてきたかの歴史を学びました。沖縄、アイヌ、台湾、朝鮮半島が明治日本に組み入れられてきた経緯は「歴史」ですが、沖縄の戦没者遺骨の扱いや、日本政府に対し補償を求めて韓国の元従軍慰安婦らが起こした裁判などは、現在進行形の「課題」でもあります。外国人も多数居住する豊島区でも、多文化共生のコミュニティづくりは以前からの大きな取り組み課題です。受講生の皆さんも、問題意識を持ってゼミに参加しました。

こうした課題を掘り下げるキーワードの一つが「境界」です。人間が集団を作る時には、自分たち以外の「外部」を作り「境界」を設定します。ゼミでは、自他を区別する意識としての「境界」と、国際間で実際に領域確定される「境界」の重なりについても活発に議論しました。国や自治体が企画実施する国際交流の催しがたくさんある中で、自分たちの意識の内部にある他者との「境界」をあらためて考察することは、多文化共生の思想基盤をしっかりと作るために大切です。



Column コラム 2

「としま学びスタイル」の 今と未来について —学びあう場のさらなるひろがり—

学習院大学国際センター
FD 共同研究員
唐木澤 みどり

豊島区生涯学習推進ビジョンにもあるとおり、豊島区は「豊かな学習資源のあるまち」であり、「多文化共生のまち」です。この2つの大きな特徴から、「としま学びスタイル」の今と未来について考えてみたいと思います。

まず、「豊かな学習資源のあるまち」として、区民ひろば、地域文化創造館、みらい館大明など、学びあう場が多いことが挙げられます。これらの学びあいの場をさらに活用していくことで、学びの循環をひろげる「としま学びスタイル」の実現が進むことを期待しています。

ただ、コロナ禍の2020年度は、既存の学びあいの場を十分に活用できない状況があり、今後も続く可能性があります。未来に向けて学びの循環をひろげるためには、これまでの対面形式だけでなく、オンラインも含めたさらなる学びあいの場が必要となります。既に始まっているオンラインの活用には、個々のネット環境や機器の準備、使用方法の学習等、これまでとは異なる課題が生じていますが、対面より場所や時間の制約が少なく、より多様な人々が学びに参加する可能性も秘めています。「としま学びスタイル」の継続的な実現のためには、この新たな課題を共に考え、学びあいの場を創出していくことが大切だと思います。

豊島区は人口の約1割が外国籍区民で、110カ国以上の人が住む「多文化共生のまち」でもあります。大学や日本語学校も多く、地域の日本語教室も含め、日本語を学べる場があります。また、多様な言語・文化背景をもつ人々が集うまちであり、相互交流を通じた学びあひも可能です。今後は、外国人、日本人を問わず多様な人々との相互交流を通じた学びあひの機会や、外国人の方が安心して暮らせるように生活に必要な日本語を学ぶ機会をさらに広げることが望まれます。ここでも上述した学びあひの場のさらなるひろがりが必要となります。今後もみなさんと一緒にこの課題を考えていくことが「としま学びスタイル」の実現につながっていくのではないかと考えています。



区民の学びこそ 社会の力になる



未来を描く力は新しい文化や価値をつくりだす【この本カフェゼミ】

気鋭の若手哲学者マルクス・ガブリエルの『世界史の針が巻き戻るとき「新しい実在論」は世界をどう見ているか』(PHP新書2020)をとりあげ、人間にとって存在する「真実」についての哲学的思考に触れました。価値の危機、民主主義の危機、資本主義の危機、テクノロジーの危機、そして表象の危機という5つの危機を、自分たちがどのように引き受け、対処していけばよいのかということ、各回のゼミで議論しました。コロナ危機の中で、議論し考えを深め、そして言語化することで磨かれるのは、未来を描く力です。ゼミを通して獲得するのは、この力です。受講生は、豊島区中央図書館の季刊・図書館通信の「この本カフェ」コーナーに書評を寄稿しています。書く力も年々アップしています。

人がつながることで学びあひの広がり【オンラインでのゼミ運営】

新型コロナウイルスの感染が波の様に広がりを見せる中、受講生有志が「オンラインでゼミを続けよう」と動き出し、オンライン会議システム「Zoom」を活用してゼミ運営ができました。マナビト生の辻秀幸、小湊建侍両氏のテクニカルサポートやゼミ仲間の協力で、区民によるオンラインでの学びが非常にスムーズに進みました。また、教室とオンラインとで生じる学びのギャップを少しでも減らすべく、何人かに「学びの伝え役」になってもらい、200字で各回のゼミ報告をしてもらいました。これも大いにオンラインでの学びの助けになりました。教室の受講生と自宅にいる受講生とをつなぐ、いわゆるハイブリッド型の授業が実施できたのも、この様な工夫があつてのことです。

オンラインを活かした「雑談ルーム」の試みもあり、ゼミ本番への導入としてとても有意義な仕組みでした。危機の中でも、創意工夫によって協働学習ができたことは、今後につながる大きな成果です。

コロナ危機下での学び 受講生の声から

2020年度の受講生たちは、戸惑いながらもゼミを続けてきました。各回の感想から声を紹介。ひとつひとつ、2021年度の活動へと活かしていきます。

ゼミ仲間が紹介した「マインド・マップ」が、内容の整理に非常に役立った。

自分の意見を主張する人間になりたい、素直な子ではダメだと、あらためて思った。

異なる意見に耳を傾けること。ゼミではこれが大切。

課題提出(200字まとめ等)が多く、作業と学びには時間が必要だと感じた。

ゼミでの対話と議論を通し、難しい本も理解できるものになっていった。

オンライン授業の模索と緊張感がともなう講座だった。

リテラシーを高めるには、深く考える「思考の体力」をつけなければならない。

オンラインと対面、両方のメリット・デメリットを見極めて講座を行うべし。

ゼミでの対話は、視野を広げ、思考を深めるために必須だと思った。

新書1冊だけでは消化不良で、他の本も読み進める意欲が必要だ。

学んだ成果を広く発信し さらに一步先の学びへ



学びの成果の発信もしっかりと 【としまテレビで情報発信】

佐藤ゼミの清水悦子・辻宏子両氏は、4月17日に、としまコミュニティ大学と豊島区立中央図書館との連携企画としてとしまテレビに出演し、本の紹介を行い、読書の魅力を伝えました。コロナ危機下ゆえにオンラインでの出演でしたが、これは「区民の、区民による、世界へ向けた学びの成果発信」として、大きな一歩です。また6月6日には、としまコミュニティ大学のゼミ活動の一部を紹介する機会もありました。ゼミを担当する佐藤壮広講師が、「読む読書から行動する読書へ」というメッセージを発信しました。当日の様子は、以下のYouTube豊島区公式チャンネル「としまなまなるチャンネル」で視聴できます。

視聴はこちらから



2020年6月6日
「としまコミュニティ大学
マナビトから」(第1部)
「本はともだち Vo.2.5」(第2部)
<https://www.youtube.com/watch?v=GZgMT0fh17U>



月刊『地域人』・メールマガジンでの 情報発信 & 成果報告

学びの成果発信のもう一つの成果として、月刊『地域人』(大正大学地域構想研究所)の豊島区特集(2021年1月号)でも、コロナ危機に負けないとしまコミュニティ大学の「学びの場づくり」が紹介されました。毎年の学びの成果は「記録集・報告書」としてまとめられています。ゼミ活動やその成果を情報として様々なメディアで広く発信していくことも、区民主体の講座やゼミの重要な課題です。

コロナ危機で、対面での情報共有は難しい面がありましたが、としまコミュニティ大学のメルマガを通して本の紹介や学びの成果報告なども行われました。SNSの活用も、あらためて見えてきた可能性の一つです。さらに、「学びの手紙」と題してゼミ生同士のエール交換も試みました。これは、講義で行ったミニレポートや議論を振り返り、ゼミの仲間で述べあうコメントのようなものです。この「やりとり」を丁寧に重ねることで、2021年度のゼミ活動の基礎がつけられます。2020年度は、試行錯誤しながらもこのような課題に取り組んできました。これからも成果の発信は積極的に進んでいきます。

学びの価値を再認識 【オンライン学習ネットワーク交流会 「今年の学びどうだった?」

2020年度の学びや活動についてふりかえり、新たな価値をつくりだす学びにつなげる学習ネットワーク交流会は、今年度はコロナ禍で集まることができず、としまテレビのスタジオからウェブ会議ツール「Zoom」を使って、講師と受講生3人を繋ぎ、今年の学びをふりかえる交流会が行われました。

「コロナ禍で、みんなで集まって学ぶことは難しいかと思っていたが、開講して学ぶ場があって嬉しかった。学べる場があることの大事さを改めて感じた。」「生まれて初めてオンラインで受講できたのは、授業の配信をサポートしてくれた同じ受講生の方々の助けがあってからこそ。サポートがなければ授業を受けることもできなかったかも。」などの感想が寄せられました。

しかし、授業が進むにつれて、次のようなオンラインの授業の難しさも感じたようです。

「画面越しでの発表は、話しをしている方の熱量の伝わりにくさや、通信環境による聞き取りにくさもあり、対面で話をするのとは違う。サポートする側から、仲間意識やつながりを作るためにはどうやってしかけたらいいのか、とても悩んだ。」

ゼミは新しい知識を得るだけでなく、人と会う、自分の意見を言う、他の人の意見を聞いて自分の考えと重ねてみる、という学びの場です。コロナ危機下での活動を通し、講師と受講生、学びを支援する人も自分達の学びは自分達で作りにあげていく場であることを改めて確認できました。

視聴はこちらから



2021年2月6日
「今年の学びどうだった?
~学習ネットワーク
交流会マドメ~」
<https://www.youtube.com/watch?v=sKgYqZ7t19c>



としまコミュニティ大学の講師も「新しい生活様式」に対応しつつ問いを出し、思考し、学んできた1年。そのまよりの機会の一つが、としまテレビでの「対談」でした。 <としまコミュニティ大学・教員対談 2020>

1

災害にどう向き合うか ~歴史に学ぶこれまでとこれから~ 大正大学文学部教授 榎本淳一氏に聞く

日本の古代にも「疫病の流行」はあった。遣隋使・遣唐使の時代は海路経由で伝染病が国内に入ってきた。奈良・平安時代の人びとは、1-神への祈禱、2-怨霊への慰撫・謝罪、3-医薬・食料の支給、4-治療方法の指示・通達などを行なった。大切なのは、「どんな時代にあっても、不確かな情報に惑わされず、適切に対処すること」。またリモートやオンラインという「新しい生活様式」は、コロナ・パンデミックが収束した後も続くという意味で、後戻りできない変化であり、今後は人とのつながりをさらに大事にしていくことが求められる。

視聴はこちらから



2020年10月10日(土)放送
「としま情報スクエア」にて
<https://www.youtube.com/watch?v=RZc-0jN1Z0U>



2

今だからこそ必要な学び ~体と頭の両側面から~ 帝京平成大学ヒューマンケア学部准教授 原口力也氏に聞く

楽しくエクササイズでき、健康増進につながるような授業を普段から行っている。受講生は皆、生き生きとして、目つき顔つき体つきも変わってくる。筋肉痛だという人には、「良かったですね、筋肉も喜んでますよ」と声をかける。「豊島区は健康で長寿、日本一だね」と言われるぐらいの地域になってほしい。それを目指して講座を続けてきた。脳は身体各所に指令を出す司令塔で、脳を鍛えることと身体を鍛えることは繋がっている。あらためて、心身両面からの学びの充実を目指すべし。

視聴はこちらから



2020年12月13日(日)放送
「としま情報スクエア」にて
<https://www.youtube.com/watch?v=bmC4LwSvzPY>



Column コラム 3

ビジョンは 「あなた」の応援団

立教大学 文学部
学校・社会教育講座
特任准教授 高井 正

「豊島区生涯学習推進ビジョン 2020-2024 ~としま学びスタイルの実現~」が誕生しました。策定に関わった一人としてうれしく思うとともに、5年間の世の中の変化を見通すことの難しさを実感しています。

2年にも満たない期間の中で、新型コロナウイルス感染症は今までの当たり前を大きく揺さぶりました。職場に出勤するという働き方は変化を求められ、生涯学習事業もオンラインや対面とオンラインを併用するハイブリッド型等々、急激な変化の中にあります。私自身、2020年度の授業は全てオンライン(リアルタイムの双方向)で行いましたが、年度当初はスキルがなく、まさにパニック状態。Web上の研修会にかなりの回数参加し、何とか最低限の対応はできるようになりました。普通のことがある程度できるようになると、Jamboardというアプリを使ってみるなど、「少し成長したな」と自分を褒めました(笑)。

コロナ禍で迎えたビジョン策定の後半は、顔を合わせた議論は困難で、オンラインを活用した事業展開についての検討は不十分でした。ですが、オンラインは目的ではなく一つの方法であることを理解すれば、かなりの対応が可能となります。必要は学びを呼び起こす、コロナ禍での私の実感です。

としま学びスタイルの実現をめざすビジョンは、区民の学習の応援団で、主人公は区民の皆さんです。ビジョンは学びへの一歩を踏み出すきっかけや集える場をつくり、動き始めた人同士をつなげたり、人と活動、活動と活動の協働を働きかけます。

学びのスタイルは多様で、主人公の区民お一人お一人が決めることができます。先を見通すことの難しい現代ですが、学ぶことの積み重ねは、より確かな選択を導き出すことでしょう。最後に私のつくった「学びのスタイル」を紹介します。

- **ズ** 学びの**スピード**は ゆっくりでも早くてもOK
- **タ** 学び方の**タイプやカタチ** はいろいろ
- **イ** **インターネット**という手段を活かして
- **ル** 学びを私と地域の**ルネッサンス**(再生)につなげていこう